

国際協力特別賞

世界平和への第一歩

旭中学校 3年

岩村 早希子

「読み聞かせは世界平和につながる。」

と母は常に言っている。私はいつも

「そんな簡単な話じゃないから。」

と返していた。けれど、どうして読み聞かせが世界平和につながると思うのだろうかと考えたとき、ふと学校にある読み聞かせ団体のことを思い出した。その団体は、小学校のときは月に一回、中学校に入ってからは半年に一回のペースで来ていた。バザーなどの学校行事のときも、さまざまな方法で読み聞かせをしてくれた。母もその団体に属している。

私は、ある時、読み聞かせが世界平和につながると思える理由をたずねてみた。すると母は、「今の子供たち全員に読み聞かせをできたとしたら、子供たちは、豊かな心を持つ大人に育つと思うから。絵本は、人の心を素直に表現してくれるから。そういう心を育てるために絵本があると思うから。そして、皆が豊かな心を持った人になれば、戦争しようとも、差別しようとも思わないと思う。戦争や差別が起こるのは、相手を受け入れる心の余裕がないことで起こると思うから。気の長い、時間のかかる話かもしれないけど、それができて、一人一人が平和を願い、世界の問題に目を向けることができれば、その一人一人の小さな力が大きくなって、世界平和を実現することができるようになると思うから。」

私は、その言葉を聞いて、とても驚いた。私は、そんな小さなことを世界平和の一步につなげることができるなんて思いもしなかったからだ。けれど、それが実現されたらいいと思う。それは、今、戦争しているのも、差別しているのも人だからだ。その人と人が人種や文化、考えの違いなどの垣根を越えてつながって世界平和を実現できる日を迎えることができたのなら、そんな素敵なことはないと思う。

私達は、危険に疎い。食べ物がたくさんあって当然で、空調の効いた部屋、教育を十分に受けられる環境、好きな事を十分に伸ばすことのできる習い事。だから、私達は、戦争の話、飢餓やストリートチルドレンの現状を聞いても、どこか他人事で現実味がない。講話や写真だけでも発展途上国の問題を理解できる人はいるのかもしれない。けれど、私は、それだけでは分からないし、彼らの苦しみや悲しみを百パーセント理解することは絶対にできない。だから、そのぶん私は、彼らの国で起こっていることをしっかり知ろうと思う。そして、今の無力な自分にできる支援、ボランティアをやっていきたい。それが、今の私にできることの最初の一步だと思うからだ。

私は、将来、大人になったら、読み聞かせを世界中でしたい。母の夢が私の夢にもなったからだ。そして、世界平和の訪れる日に立ち会いたい。